

～ 令和5年度 原山中学校の通知表の見方について ～

中学校の各教科の評価は、各教科における評価規準に照らし、『絶対評価』で観点別に評価を行い、それをもとにして5段階の評定をつけています。『絶対評価』とは学習の目標に対して生徒一人ひとりがどこまで到達したかを見るものです。

自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直す資料としてとらえ、学習の改善や生き方の確立に結びつけていけるようにしましょう。

1 各教科

各教科で、観点別に3段階（「A」「B」「C」）で評価します。

観点別評価の資料を総合して、5段階（「5」「4」「3」「2」「1」）の絶対評価で表します。

(1) 各教科の観点項目

- ①知識・技能
- ②思考・判断・表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

(2) 観点別学習状況の評価の表し方

各教科の評価の規準に照らして、以下の3段階で評価します。

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの

(3) 観点別評価のもとになる資料

- 授業での観察・評価（授業態度・挙手・技能・発表等）
- 提出物・ノート・レポート・作品等
- 定期テスト・小テスト等
- 自己評価、相互評価等

(4) 教科の評定

観点別評価の資料を総合して、5段階の絶対評価（目標に準拠した評価）で表します。

(例)

	例1	例2	例3
知識・技能	A	A	B
思考・判断・表現	A	A	B
主体的に学習に取り組む態度	A	B	B
評 定	5	4	3

<評定について>

- 評定5：「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
- 評定4：「十分満足できる」状況と判断されるもの
- 評定3：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- 評定2：「努力を要する」状況と判断されるもの
- 評定1：「一層の努力を要する」状況と判断されるもの

= 観点別評価と評定の関わりについて =

- 観点別評価と評定の関わりについての規準は、各教科で統一されています。
- 観点別評価（A・B・C）が同じで、評定（1～5）が異なることはありません。
生徒① AAB → 4
生徒② AAB → 5 } のように評定が相違することはありません。

※ 学年評定は、1・2・3学期の評価を総合して、年度末に評価します。

※ 学年評定は、3学期の通知表でお知らせします。

2 総合的な学習の時間（全学年）・特別の教科 道徳（全学年）・潤いの時間（人間関係プログラム）（1年のみ）

「通年の評価」として、3学期に記述で評価します。